

三瓶自然館でのニホンアマガエルの飼育について

松村美雪*

The rearing environment for Japanese tree frog in Shimane Nature Museum of Mt. Sanbe

Miyuki Matsumura*

Keywords : Japanese tree frog, Rearing environment

キーワード : ニホンアマガエル, 飼育

1. はじめに

三瓶自然館では、黄色素胞欠乏のニホンアマガエル *Hyla japonica* 雌を2010年6月25日から、15年飼育をしている。ニホンアマガエルの成体のほとんどが4~6歳、最長で6~11年と推定されている (“*Hyla japonica*” . Amphibiaweb,2025, <https://amphibiaweb.org/species/832>, 2026年1月4日確認; 松村美雪)。飼育下での記録はないものの、一般的な年齢を考えると、15年の飼育記録は特筆すべきものといえる。長期の飼育が可能となった理由のひとつとして、飼育環境が良好に保たれていると考えられることから、現在の飼育状況について報告する。

2. 飼育状況

(1) 飼育場所

三瓶自然館本館2階に魚類3種、両生類4種、爬虫類2種を生体展示しているスペースがあり(図1)、この一角で黄色素胞欠乏個体のニホンアマガエル1匹を飼育展示している。

野外観察コーナーに隣接しているが、大きな窓から直接光が入ることはなく、天井の照明と100W形相当のハロゲンランプ型LEDライト3灯でケージを照らしている。紫外線ライト等は使用していない(図2)。

展示スペースは館内空調が稼働しており、6~9月は冷房が10月~5月は暖房が入る。夜間、毎週火曜

日(夏休みを除く)、年4回の5日間のメンテナンス休館と年末年始休館時等の閉館時は空調が入らない。夏の日中は冷房が入るため室温が22~23℃、夜間から明け方は25~26℃になる。冬の日中は暖房が入るため21~22℃、明け方は温度が下がり10℃近くになる。年末年始の休館中は8℃前後まで室温が下がる。三瓶自然館は標高550m付近に位置し、所在する大田市より気温が3~4℃低いことが、夏の夜間の室温が高くなること等、閉館中の室温に影響している。

湿度は春から夏にかけては50~60%、秋から冬にかけては40~30%になる。

(2) 飼育環境

ケージ

爬虫類両生類用ガラスケージ(ニッソー WP440 外寸W42cm×D32cm×H40.5cm)を使用し(図2)、現在は1匹を飼育している。以前はこの大きさでニホンアマガエル3匹飼育していた。

底床

ケージ底に1.5cmの厚さで鈴虫消臭 BIO バイオマット(マルカン)をしきつめている。底床の土の上に三瓶自然館周辺で採取したチョウセンゴケ科のコケ類を入れている。始めは底床面積の1/3程度に植えていたが、その後、成長し、現在では水入れや植木鉢を入れてあるところを除いて、底床のほぼ全面を占めている(図3)。コケ類は照明の当たるところが特に成長するため、ケージの前面は高さが12~13cmに伸び(図4)、コケ類によって高低差ができています。中ほどは手が半

* 島根県立三瓶自然館, 〒694-0003 島根県大田市三瓶町多根 1121-8

The Shimane Nature Museum of Mt. Sanbe (Sahimel), 1121-8 Tane, Sanbe-cho, Ohda, Shimane 694-0003, Japan

分入るほどの空洞ができ(図5), ところどころアマガエルが入れる大きさのくぼみがある(図6).

水入れ

4号盆栽鉢(φ13cm×H5cm)の穴をエキシポパテ金属用でふさいで使用している(図3).

植物

3号素焼植木鉢に高さ13~14cmのポトスを植えて設置している(図3).

止まり木

直径12mm~13mmの枝を2本交差させ, 止まり木としている(図3).

(3) 飼育方法

日常の管理

コケ類は湿った環境が必要なため, 休館日をのぞき, ほぼ毎日霧吹きをしている. パネルヒーター設置時は特に乾燥するため, 小型のじょうろで念入りに水やりをしている. 観葉植物にもコケ類と同様に霧吹きをし, 土の表面が乾いたら水やりをしている. コケ類や植物への霧吹きや水やりが, 結果, カエルに対しての保湿になっている. 霧吹きをした後は, ケージについた水滴をとるためガラス面を拭き, 汚れ等も取っている. フンは見つけ次第取り除き, フンがあった場所の汚れも歯ブラシ等で落としている. 水入れの水も休館日をのぞき, ほぼ毎日交換している.

餌

ヨーロッパエコオロギ10mm前後のものを中心に, カルシウムサプリメント(マルベリーカルシウム, 月夜野ファーム)をふりかけ, 春から秋は2~3匹を週に1~2回, 冬は1~2匹を週に1回給餌している.

脱皮殻の処理

脱皮の皮の一部がついたままになっていることが時々あり, 特に乾燥している冬にその傾向がある. その場合, カエルを数秒水に入れ, 軽く撫で脱皮の皮を取っている.



図1 本館2F 生きものコーナー

保温

三瓶自然館では冬眠をさせずに保温をして冬越しをしている. 12月初めから5月初め頃まで, パネルヒーター(ピタリ適温プラス2号25.5cm×22cm, みどり商会)をケージ下, アルミシートを敷いた上に設置し, 暖房の入らない夜間を中心に16:00~11:00と休館日にタイマーを使ってパネルヒーターを動かしている. パネルヒーターを入れることによって室温よりケージ内が1~2℃高くなる.(図7)

また, 年末年始休館や3月のメンテナンス休館には, ケージの側面にパネルヒーターとアルミシートを各1枚重ねて貼りつけている.

(4) 飼育個体

現在飼育中のニホンアマガエルは(図8), 一般の方により大田市長久町で見つかり持ち込まれた黄色素胞欠乏の雌で, 2010年6月25日から15年7ヵ月(2026年1月25日現在)飼育している.

以前は, 同じゲージで複数のニホンアマガエルを飼育しており, 1匹は大田市五十猛町で見つかった黄色素胞欠乏の雌で, 2012年7月11日から2023年7月26日まで約11年間飼育していた. もう1匹は大田市川合町で見つかり持ち込まれた黄色素胞欠乏の雄で, 2013年4月26日から2025年7月9日まで約12年間飼育していた. いずれも死んだために飼育を終了した.



図2 照明を含めた全体



図3 ケージ内のレイアウト

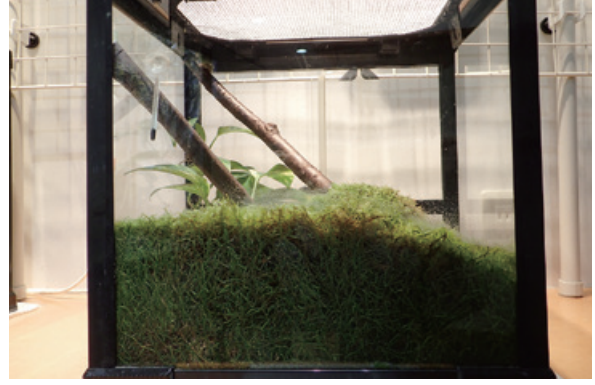


図4 コケ類前面



図5 コケ類の中の空洞



図6 コケ類の中のアマガエル

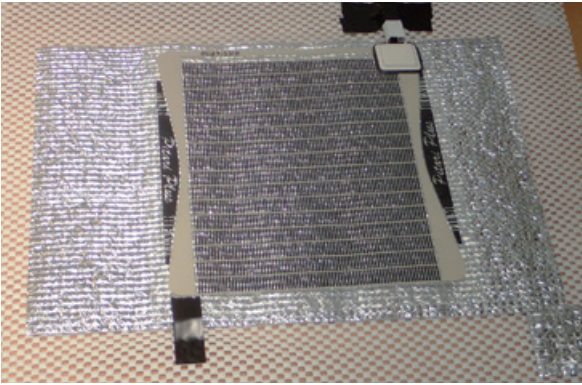


図7 パネルヒーター



図8 飼育中のアマガエル

謝 辞

コケの同定に関し、高知大学理工学部の片桐知之氏にご教示いただき、この場をかりて深くお礼申し上げます。

引 用

松井正文・前田憲男（2018）日本産カエル大鑑。文一総合出版、東京。50pp.

